

「窓大きい＝良い家」今は昔!?

数減らし小さく 省エネや防犯性アップ

戸建て住宅を新築する際、窓を小さくしたり、数を減らしたりする動きが進んでいる。窓を減らして家の断熱性を高め、プライバシー確保や防犯性の向上も目指しているのだという。「窓が大きい＝良い家」という考え方が見直されつつある現場取材した。(石原宗明)

関心アリ!



長野県軽井沢町の女性会社員宅の1階和室。窓の下半分ははめ込み式＝女性提供

■隣家を気にせず

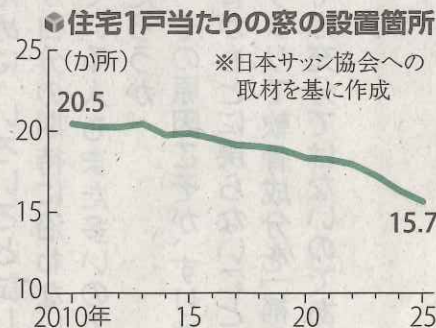
「田舎育ちなので『窓の大きな家が良い家』と考えており、窓の少なさを、小ささに驚いた」。今年3月、名古屋市内に2階建て住宅を新築した男性会社員(41)は、最初に建築家から設計図を手渡された時のことをこう振り返った。図面では、玄関のある北側に窓が一つもなく、2階の部屋には日光を取り入れる細長い窓があるだけ。トイレや洗面所にも窓はなかった。



①名古屋市の男性会社員が建てた住宅の玄関。壁面には窓がない
②階段上部の窓で日当たりを確保している＝いずれも男性提供

要があると感じた」と話す。7月に長野県軽井沢町で2階建て住宅を新築した女性会社員(51)は防犯面を重視し、開閉できないはめ込みの窓や細長い窓などを取り入れ、大きな窓は最小限にした。「トイレと浴室に窓はつけていないが、マンション暮らしが長く違和感はない。掃除もしなくてすむ」と語る。

■10年で4・2か所減
窓メーカーなどで作る日本サッシ協会(東京都港区)が今年3月にまとめた、全国の新築戸建て住宅約3000戸の調査結果によると、1戸当たりの窓の数は15・7か所で、2015年の同様の調査と比べて4・2か所減少した。床1平方メートル当たりの数は0・136か所、15年比で0・027か所減っている。同協会によると、建築費を



同省建築指導課は「窓を小さくすることを安易に求めるものではない。ただ、窓が小さくなれば省エネ促進につながるため、規定見直しが行われた」とする。

抑えるため、窓の面積を最小限に抑える傾向があるという。また、住宅に夏場入ってくる熱のうち、窓から約7割を占めるなど、熱は窓から出入りしており、同協会事務局長の山本英司さんは「高断熱の樹脂窓やトリプルガラスなどもあるが、費用がかかる。断熱材入りの壁の方が窓より断熱性は優れており、窓をなくしてしまうという選択が広がっている」と説明する。

■工夫で採光目指す
それぞれの間取りに合わせ、小さな窓からでも自然光を取り込むと、ハウスメーカーや工務店は工夫を凝らしている。東海地方で注文住宅などを手がける「国松工務店」(名古屋市中区)は、天窓を設けたり、吹き抜け上部に窓を付けたりして、室内に広く光を入れる工夫をしている。伊藤孝修社長は「窓が少ないドイツの住宅を研究しながら提案しているが、ここ10年間で窓の数は2・3割減った。窓が減ると家具を配置しやすいといったメリットもある」と話す。

工学)の伊香賀俊治さんは建築費を抑える上で、窓を減らすことはやむをえない選択肢」と指摘する一方、「家の中の照度は、生活の質を高める上で重要な要素で、暗いと気持ち落ち込みやすくなるなど、不健康な状態を招く。窓などに関する国の補助金を用いたりしながら、窓の役割をしっかりと考えて、家造りを進めていくべきだ」と話している。

家の作りやうは夏をむねとすべし。吉田兼好が徒然草でこう説いたように、日本の家は夏の暑さ対策を重視し、風通しが良くなるよう、窓などを大きくしてきた。平均気温が過去30年の平均値を2・36度も上回り、史上最も暑くなった今夏(6～8月)は暑さ対策を考えさせられた。兼好は今、家造りについてどう思うだろうか。

新築時に高断熱の窓などを取り入れてもらおうと、国は補助制度を設けている。

国土交通省は今年度、7段階ある住宅の断熱等級のうち、2番目に高い「6」以上の新築戸建てに160万円を支給する補助制度を設けたが、7月下旬に上限の500億円に達し、受け付けを打ち切った。等級「5」以上の新築住宅に40万円補助する制度は継続している。担当者は「心地よい住環境のため、窓の大きさは大切。同じような大きさのままで、断熱性能を高めることが重要」とする。環境省も今年度、既存の住宅を二重窓などに改修した際の費用を半額程度補助する制度を設けている。

断熱窓導入 国の補助